



2014年7月20日
第26号

岡山大学工学部 同窓会報

編集・発行 / 岡山大学工学部同窓会事務局
〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学新技術研究センター内
TEL・FAX (086) 255-8311
メールアドレス ofst@cc.okayama-u.ac.jp
ホームページ(URL) <http://www.eng-okayama-u.ac.jp/alumni/index.html>
印刷所 / 小野高速印刷(株)
〒670-0933 姫路市平野町62 ☎ 079(281)8837

TOPICS

挨拶 (工学部長、代表幹事、退職者)	1～
学科近況、職場紹介	5～
ホームカミングデイに向けて	9～
支部設立に向けて	10～
新任・昇任・退職等教員紹介	11～
寄附者一覧	14
会計報告	15
同窓会事務局より	16

工学部の現状とグローバル化

工学部長 富田 栄二



工学部における最近の活動状況および平成26年度の目標等をご紹介します。

平成26年からは新しい4学科体制になって4年目になります。工学部共通コア科目の導入を始めてから4年目になりますので、見直しをして改善していく予定です。

全学の動きとしては、平成27年度から、教養教育科目の一部に地域・社会と連携した、実践型の科目が新設される予定です。また、岡山大学の学生が海外へ留学しやすくするために、クォーター制の導入等が考えられています。具体的にはこれからです。

社会貢献に関しては、学生フォーミュラやロボコン活動、出前講義、各先生方の審議会や学会での委員会活動、創造工学センター部門による小中学生向けの各種行事など、いろいろとありますが、これらは岡山大学工学部を広く社会に認知してもらい、その存在感を示すという意味で、まさに広報活動につながっています。幅広い広報活動が受験生の確保にも結びつきます。特に前期入試の倍率がいつも注目されます。平成26年度入試は、2.3倍でした。最近はずっと2倍以上確保できており、今後も、継続して2倍以上の倍率を保っていききたいものです。

学生にとっては学部と大学院は異なりますが、教職員にとって、学部と大学院は明確に線引きすることはできず、円滑な管理運営のためにはお互いの連携強化は必要です。自然科学研究科と連携し、大学間協定を通じて、

米国のウェイン州立大学の老齡学研究所、がん生物学研究所、SSIM (Smart Sensors and Integrated Microsystems) やサンノゼ州立大学のCybersecurity and Big Data Initiativeとの間で、教員や学生の交換派遣、相互の単位取得、デュアルディグリー取得など、さまざまな交流を進めようとしております。

平成25年度からは、文部科学省が主導する大学改革加速期間となっており、現在、いろいろな改革が急速に実施されようとしております。教養教育科目だけでなく、大学のグローバル化に向けてもっと大きく変化すると予想されます。まだ、現段階では構想の段階であり、流動的です。来年の同窓会報では、詳細をお知らせすることができると思います。

また、工学部を卒業した学生は年々増えていきます。工学部同窓会と工学部がお互いの距離をもっと短くするようにしたいものです。すなわち、工学部同窓会が、岡山大学工学部の教育、研究、社会貢献にも、もっと深く、積極的に関与することができるような仕組みと一緒に構築していきたいと考えております。

さらに、平成25年10月19日に岡山大学Alumni (全学同窓会) が設立されました。これは、岡山大学の同窓生、在学生、教職員、そして岡山大学の知の営みに関与したすべての方々が構成員となっています。全学同窓会と工学部同窓会は、お互いに協力しあいながら、より良い関係を築けるように、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

岡山大学工学部同窓会のこれから

工学部同窓会代表幹事 酒井 貴志 (1970年卒)



「同窓会は何をやっているのか！」と言う意見をよく聞きます。卒業生が20,000人を超え、すでに定年を迎え自適の生活に入っている方も多くおられ、会員は幅広い年代、地域、職

種に広がっています。一方、工学部同窓会は、現旧教員の皆様も正会員です。それらを合わせた総体として、同窓会に何ができるのかを考えていかなければなりません。同窓会は、生涯現役社会づくりに貢献できる組織であり、皆様の人生を豊かにする交流の場であり、新しい力を生み出す場であることを願っています。

現在は、①活動経費のお願い—主として入学時の会費と会員からの寄付金—が大きなポイントです。また、②会員の名簿整理—5年毎に行っています。さらに、③年1回の会報の発行、④10月の大学のホームカミングデイでの同窓会総会、報告会、懇親会、⑤学部行事の支援等が主な取り組みとなっています。これらは、工学部の現職の若手教員からなる学内幹事と学外幹事によって進められていますが、多忙な仕事の中で大変なご苦勞をお願いしています。

特に、①の活動経費のお願いの成否は、同窓会活動の基盤に係ることです。平成26年度から、岡山大学Alumni (全学同窓会) 会費10,000円と工学部同窓会会費10,000円の合計20,000円の会費を入学時にお願いしていますが、5月末現在、新入生の6割強の皆様から納入載っています。これは、医学部に次ぐ納入率となっています。会費未納の方は、同窓会活動へのご理解を頂き、これからでもぜひとも納入をお願い致します。また、卒業生、教員の皆様からは多額のご寄付をお寄せいただいております(会計決算参照)、皆様のご支

援に厚くお礼申し上げます。卒業生の増加に伴い必要経費は増える一方で、財政的には厳しい状況にあります。皆様からのご支援を今後ともよろしくお願い申し上げます。

工学部同窓会では、現在、支部の整備を進めています。すでに、関東支部がありますが、現在、岡山支部、関西支部の設立の準備をしています。支部活動は、友達に会うための場だけでなく、年代を超えた新しい友人を作る場でありたいと思っています。これらの地区には、多くの卒業生が活躍しています。そこでは、懇親や情報交換、相互のスキルや立場を生かした新しい協力関係や事業が生まれてくることも期待したいと思っています。岡山支部は、本年8月9日(土)に、関西支部は10月25日(土)に、それぞれ設立総会、懇親会を行うことが決まっています(後記)。

これからは、岡山大学Alumni (全学同窓会) との関係も重要となって来ています。現在、全学同窓会と学部同窓会は、上下でなく並列関係にあります。財政的にもお互いに独立しています。全学同窓会は、全学的な視野での情報発信、学生就職支援、グローバル人材育成(留学)支援、国際同窓会(世界各地に同窓会支部を作る)等の活動を目指しています。学部同窓会と異なる点はその構成員にもあり、全学同窓会では在学学生、卒業生、留学生、現旧教職員、一時的な研究員など岡山大学に係る全ての人々が会員となる点です。

これから、同窓会は岡山大学のより前面に出ていくことが期待されており、岡山大学ホームページのトップページに同窓会のバナーが置かれています。ぜひここからも入ってみてください。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を心からお祈りしています。

退職にあたって

岡山大学の思い出

機械システム系学科 鈴木 康一

このたび2014年4月1日付で、東京工業大学に異動致しました。岡山大学では大変充実した13年間を過ごさせていただきました。同窓会の皆さんをはじめ、岡山大学工学部の関係各位に深く感謝いたします。

私は、東芝で18年間勤務した後、2001年2月1日に岡山大学工学部システム工学科教授として採用して頂きました。着任初日はとても寒い日でした。新設のポストのため、研究室はゼロからのスタートでした。当時の大崎工学部長から辞令を受け取り自分の部屋（5号館1階）に戻ると、研究室唯一の財産（といっても則次研からの借りもの）であるガスストーブ1台と1脚の椅子）が私を待っていていました。殺風景なただ広い部屋の中でたった一人、ストーブ前の椅子に腰かけ、茫然と、しかし同時に心はワクワクしながら、まずは暖をとりました。これが私の岡山大学生活の始まりです。

それからは有り難いことに、教職員、学生、OB/OG、それに岡山県内の大学、企業、公的機関の皆さま、等々、多くの人々に恵まれて、大学生活も軌道に乗り、様々な心躍る経験をさせていただきました。

一つは、学内における異分野融合研究です。私の専門であるアクチュエータやロボットの研究推進には「異分野融合」が重要です。例えば、ロボットを医療に応用するには医学の専門家と、新しいアクチュエータを実現するには機能性材料の専門家と、といった具合に、異分野の専門家との協力が研究推進には欠かせません。その意味でも岡山大学は素晴らしい大学で、実際、工学部のほか、医学、保健学、歯学、農学、薬学、理学、環境理工学、の先生方と様々な貴重な共同研究をさせていただきました。特に、2007年に「アクチュエータ研究センター」を作らせて頂いたことは大変貴重な経験でした。

岡山県内の産学官連携活動もワクワクするものでした。岡山には、精密機械加工、繊維関連技術、等、特色ある産業が集積していますし、県や大学の産学官連携推進に対する意識や支援も充実しています。県内の多くの企業や県の方々と協力した「マイクロリアクタ（微細化学反応装置）」や、繊維関連技術

を応用した「医用ロボット」や「人工筋肉」の実用化を目指した研究開発は大変楽しいものでした。特に「人工筋肉」については、今後の私の中心的な研究課題として、引き続き取り組む積りです。

しかし何といたっても一番の思い出は、学生さんと楽しく過ごした日々です。研究室での日々の研究、国内外へ出張、懇親会、夏の合宿、OB/OG会、等々、振り返ると懐かしく楽しかった思い出でいっぱいです。13年間に、研究室では、学士130名、修士86名、博士11名の学生さんが、システム工学科（コース）全体では、学士約90×13=1,170名、修士約45×13=585名の学生さんが、一緒に学んで卒業（修了）されたこととなります。実はつい先週は関東にいる卒業生が集まってくれて、初夏の鎌倉観光を楽しんできました。OB/OGの皆さんと今後ともこのような楽しいお付き合いができれば、と思っています。

東工大では、大岡山キャンパスにある理工学研究科機械宇宙システム専攻において、ロボット、アクチュエータ、メカトロニクスに関する研究・人材育成に取り組めます。岡山大学や同窓会の皆さまとの関係は今後も大切にしたいと思っておりますので、もしなにかお役に立てそうなことがあればお気軽にご連絡ください。現在も岡山大学の客員教授としてときどき岡山大学には伺っていますし、ひょっとしたら別の大学にいるからこそお役に立てることもあるかもしれません。

岡山大学工学部ならびに同窓会会員の皆様のますますの発展とご多幸を願っています。

定年退職のご挨拶

化学生命系学科 井口 勉

私は本学工学部工業化学科を卒業して、教職員として研究をスタートして以来、41年間、母校で教育と研究に携わり、本年3月末日に定年を迎えることが出来ました。専門は有機化学、有機合成化学です。恩師鳥居滋教授のもとでは有機電解合成、その後、生体機能応用工学科で、斎藤清機教授のもとで助教授を務め、有機合成を基盤に医用分子の開発に取り組みました。

学生時代は本学でも大学紛争で荒れていた時がありました。学部を卒業した1971年に新設された修士課程に最初の学生として入学しました。1年後、米国に留学される古田拓也先生と入れ替わって鳥居研究室の教務員に加えて頂きました。

研究室には、助教授の宇根山健治先生、先輩の田中秀雄先生が、独自のコンセプトに基づいた有機電解合成とファインケミカルズとしてジャスミン香氣成分やイソプレネケミカルズの研究開発を推進されていました。当時は情報、資材、資金が乏しかったのですが、アットホームな雰囲気の中で研究に励むことができました。その後、アメリカ留学を終えて奥本寛助手（現倉敷芸術科学）が加わり、パラジウムによる有機合成法の妙味を導入してくれました。私は天然から供給されるテルペノイド、炭水化物などのバイオ資源から出発し有機電解法を適宜導入して、光学活性な生物活性分子、(+)-ヌートカトンや菊酸など、の合成法に取り組みました。それらの研究成果で、1984年に名古屋大学から工学博士の学位を受けました。

工学部に博士課程の設置を目指し、当時の先生達が奔走された末、ようやく1985年に認可されました。1960年の工学部の新設から数えて25年が経過していました。幸いにも、博士過程学生と研究を共にすることが出来ました。川淵浩之先生（富山高専教授）とはその頃から共同研究の交流が続いております。本学部において修士と博士課程が整備され、また学科が次々と増設されて工学部が飛躍発展していく時期に在籍できたことを誇りに思っております。

1991年に新設の生体機能応用工学科に移籍し、間もなく赤レンガ棟で旧生体活性分子工学教室がスタートし、最初の学生実習が今では懐かく思い出されます。発足時から伊澤美代子助手に大変お世話になりました。2007年から精密有機反応制御学研究室を担当することになりました。助教の工藤孝幸先生がナノバイオシステム分子設計学に移籍された後、一人体制となり、また研究人生の終盤に入っていましたので、異分野の先生との共同研究を模索していたところ、2008年、日本学術振興会招聘事業としてEl-Menoufeia大学（エジプト）よりIbrahim El Sayed教授を客員研究員に迎えることが出来ました。同氏は世界各国の有力な研究室での研究経歴があり、共同研究の組織化や資金獲得の申請書作りなどのノウハウを学びました。

これまでやってきた自己完結型の研究では、論文を出せばそこでおしまいでしたが、バイオロジー

の専門家と組めば、有機合成した化合物が生物活性という新たな付加価値をもたらしてくれました。特に、抗マラリア活性、抗ガン活性、抗アルツハイマー活性化合物の発見には注力しました。抗マラリア剤については、本学薬学部で研究されている先生がおられ、助言を得ながら植物起源のリード化合物を使ってライブラリーを作製し、バーゼルのスイスTPH (Tropical and Public Health Institute) にサンプルを送って活性試験を行っていただきました。検査費の捻出が大きな課題でしたが、産学連携本部のコーディネーターの先生の的確なご指導を得て、幸運にも、JSTへの研究成果最適展開支援プログラム A-Stepに採択されて、研究を発展させることができました。その前に知財本部の先生方にご指南いただいて申請した特許が後押しになったと思っています。その後、南アフリカ、ケープタウン大学のT. J. Egan教授も共同研究に加わって頂きました。抗マラリア剤は本学に研究実績がありますので、私たちの研究がこの分野の発展に少しでもお役に立てることを願っている次第です。

日々、研究を続けながら、何か社会貢献できることはないかと考え、本学に進学希望する留学生を研究室に受け入れました。言葉の違いや生活面での世話など手のかかることも多いのですが、研究に励むという共通点を軸に彼らと交流を深め、現在までよい人間関係を築くことができました。また、中国四川大学化学学院長の余孝其教授とは研究交流および留学生の派遣を通じて親交を深めました。これらの活動に対して、平成25年度社会貢献賞に推挙して頂きました。

振り返れば、工学部緑地のフェニックスに冬には囲いが要る幼木の頃から本学にお世話になりました。そのフェニックスも今では立派に成長して、現在の工学部の繁栄を象徴しているように見えます。これまで多くの先生や事務系の方々にお世話になりました。また、所属した研究室で過ごしたスタッフ、学生の方々との楽しい思い出は忘れることはないでしょう。今までご一緒させていただいた全ての方々に心より感謝いたします。さらに、多数の研究振興財団、交流基金、企業等から物心両面にわたり、当研究室に対してご支援を頂きましたことに対してお礼の言葉も見つからないほどです。最後に、皆様のご活躍と工学部の更なる発展をお祈りいたします。

学 科 近 況

電気通信系学科 通信ネットワークコースの近況

通信ネットワークコース長
秦 正治

通信ネットワーク工学科の近況につきましては、前回報告時の平成22年に学科長だった私から報告しましたが、めぐりあわせで、再び私が近頃の通信ネットワークコースの状況とこれからの予定について報告することになりました。

組織と教員

平成23年4月に工学部の学科再編が行われ、通信ネットワーク工学科は電気電子工学科と統合して電気通信系学科になりました。しかしながら大学院の専攻や講座との整合性を考慮し、新学科の中に旧学科に対応する電気電子工学コースと通信ネットワークコースが設定されました。従って、旧通信ネットワーク工学科は現在の通信ネットワークコースに対応します。学科再編後の一期生となる平成23年4月入学者は、平成24年10月の2年生後期から電気電子工学コースと通信ネットワークコースに分かれており、本年度の平成26年度末で各コースを卒業することになります。

大学院についても平成27年度に一部改組を行うべく準備が進んでいます。この改組は、自然科学研究科に関しては、既存の機械システム工学と電子情報システム工学（産業創成工学）、化学生命工学の各専攻から生命医療に関連する部分を分離して、「生命医療工学専攻」を新設するものです。元の化学生命工学専攻は応用化学工学専攻になります。なお、電子情報システム工学専攻からは3名の教授が生命医療工学専攻に移る計画です。

次に通信ネットワークコースの教員の異動についてですが、平成23年4月に田野哲教授を迎え、ソフトウェア無線やコグニティブ無線などのマルチメディア無線方式対応の新しい研究室を立ち上げました。さらに同時期に、クラウドコンピューティングや次世代ネットワークとその応用などの分野について拡充すべく、渡邊寛助教を迎えました。今後は、EMIを考慮した光・電子回路デバイス設計や高周波電磁ノイズ解析などに関する分野を強化することや、平成26年3月に広島大学教授に転出された中西

透准教授の後任を求めることを計画しています。

教育と研究

学科再編に伴いカリキュラムも再編されましたが、2年生後期で専門コースを選択することになるため、コース選択に関するガイダンスやコース推奨科目の指定など、従来なかった教育上の工夫が必要になっています。このため、より良いカリキュラムになるよう教務委員を中心に、これからの学科を担う若い先生方が主体となって、講義内容の見直しを継続して行っています。

一方、研究についてですが、これも若い先生方の努力により、外部研究資金の獲得が従来よりも件数・金額とも増えてきました。例えば、平成24年には、五百旗頭健吾助教が中心となって、総務省のSCOPEから、暗号ICのサイドチャンネル攻撃に対する安全性シミュレーション技術の開発に関する資金（期間2年）を、さらに同年に、野上保之准教授が中心となって、科学技術振興機構（JST）から、匿名認証技術に関する計算アルゴリズムと処理チップの開発に関する資金（期間3年）などを獲得しています。

このように、前回の平成22年の報告からわずか4年ですが、様々な変化が進行中です。卒業生の皆さんには、本学科・コースがさらなる発展に向かっていくことを理解していただき、ご支援やご協力をいただければたいへん有り難く思います。終わりに、皆さんのご活躍を期待し、また、ご健康とご多幸を祈念いたします。

情報系学科の近況

情報系学科学科長
尺長 健

情報系学科について平成24年の第24号で当時の学科長の阿部匡伸教授が述べられています。ここではその後の変化と情報系学科を取り巻く状況について報告致します。

1. 二人の名誉教授の誕生

平成25年3月、これまで永年に亘って学科を支えて来られた山崎進教授と金谷健一教授が定年退職され、ともに名誉教授に就任されました。まず、山崎進名誉教授は学科創生期から25年9

カ月に亘って情報工学科・情報系学科を名実ともに支えられました。研究において、推論・演繹を中心課題とする数々の論文を著されるとともに、知能情報処理分野を中心とする広い分野の教育を担当されました。また、学科長を通算6年務められ、教務関係の実務を永年に亘って担当されるなど学科の大黒柱的存在であり、先生のお力なくして今日の情報系学科は無かったと言えます。一方、金谷健一名誉教授は、平成13年4月に群馬大学教授から岡山大学に転任されて以来、12年に亘って数理情報分野を担当されました。研究においてコンピュータビジョンにおける数々の最適化手法を提案されるなど、世界的に活躍される傍らで、数冊の教科書執筆や英語教育に尽力されました。お二人ともに力を十分に残しての退職であり、山崎先生は非常勤講師としてその後も情報系学科における講義を担当されています。また、金谷先生はご自分の名前を冠した国際ワークショップを開催されるなど研究を中心にご活躍されています。

2. 教育組織の変化

平成24年5月以降に生じた教育組織の変化を順を追って紹介すると次のようになります。まず、平成24年9月に、原直助教が奈良先端技術大学研究員から着任され、阿部教授と共に音声情報処理の研究と教育を担当されています。次に、山崎教授の後任として、平成25年4月 高橋規一教授が九州大学准教授から着任され、大規模ネットワークの振る舞いや大規模データの解析法を研究し、数理情報処理分野の教育を担当されています。また、金谷教授の後任として、平成25年4月 太田学准教授が教授に昇任され、引き続き、Web情報検索と電子図書館の研究と関連分野の教育を担当されています。また、平成26年2月には、後藤佑介助教が准教授に昇任され、引き続き、インターネットとデータ通信の融合に関する研究とソフトウェア工学分野の教育を担当されています。平成26年4月に谷口秀夫教授が理事・副学長に就任され、自然科学研究科および工学部を兼務されています。谷口理事の講義や研究室の活動は従来通りですが、学科の運営からは離れています。また、後藤先生の昇任に伴って空席となった谷口研究室の助教については後任公募が現在進められています（5月20日現在）。以上の結果、現在の情報系学科教員は、理事1名（兼務）、教授5名、准教授

4名、講師3名、助教5名、助手1名の19名となっています。

3. 就職状況の変化

経済状況の好転に伴い、就職事情は学生側に有利になっていることが実感できます。社会の情報化が益々加速していく中で、卒業生の活躍の場は大きく広がっています。一方で、学生に対してコミュニケーション能力や英会話能力を要求する企業が増える状況で、修士卒では多くの学生が納得のいく会社に就職できるというのが、今年度の進路指導から得られる実感です。また、大学院進学率は上昇しつつあり、6割以上の学生が岡山大学あるいは他大学の大学院に進学しています。さらに、来年度からは就職活動時期が遅くなるのが予想されるため、修士卒では研究内容に関する説明能力が問われることとなります。一時代前に流行った過度な就職活動の傾向を脱し、真剣に学業に専念できるか否かが問われる時代が到来するのだと思います。最近の企業からのリクルートでは、OB・OGが担当窓口となるケースが増えており、本年も、多くの方々には色々な面でお世話になりました。ここに感謝申し上げますとともに、今後も同様のご協力をお願いする次第です。

4. 情報革命の観点から見た現在

1940年代後半に出現したコンピュータは、ムーアの法則に従って、2年で2倍の性能向上を続けています。一方、1980年代のイーサネットに代表されるネットワーク技術の発展により、コンピュータの利用形態は大きく変貌を遂げました。ムーアの法則の観点からは、100万倍の性能向上が達成された時点で、ネットワーク技術が開花したと言えます。それ以来、ネットワーク利用技術は進化を続け、コンピュータ性能がさらに100万倍に達する2020年代には、次の質的変化が予想されます。おそらく、この質的変化は、コンピュータやネットワーク技術から開花するものですが、両者を補完するものであり、産業や社会のあり方を再び大きく変革すると考えられます。ここで、コンピュータ技術やネットワーク技術が開花する10年前にそれぞれ萌芽期があり、理論と実装技術が同時並行的に発展したように、現在は2020年代に起こる技術革命の萌芽期にあると考えられます。あるいは、学科内や卒業生の皆様の中にこれに大きく関わることになる方がいるのかもしれない。皆様のご活躍を期待しています。

職 場 紹 介

倉敷市役所

岡本 洋右 (1999年電気電子工学科卒)
2001年自然科学研究科電子情報システム工学専攻博士前期課程修了



私は1995年に岡山大学工学部電気電子工学科に入学し、その後岡山大学大学院自然科学研究科博士前期課程を経て2001年に倉敷市役所に入庁しました。

大学では電子回路工学研究室（当時）に所属し、マイクロ波アンテナの研究を行っていました。電子系企業への就職も考えたのですが、地元で就職して地元へ貢献したいという気持ちが強くなり、市役所職員として就職する道を選びました。

私の勤務する倉敷市役所は、ご存じの通り、住民票・戸籍、税、保健福祉、産業、建設、教育など、48万人の市民の窓口として様々な業務を行っています。

私が最初に配属された部署は資産税課でした。ここでは固定資産税の賦課を行っており、私は土地の税額の基となる評価額を決定すべく、市内を回って土地の現況を調査しました。そして、適正・公平な課税を目指し、その利用状況に応じて評価額を決定する業務を行っていました。新聞などでよく耳にする地価の上昇・下落というものが、ここでの業務に大きく関係しています。夏の暑い日も冬の寒い日も、地番図を片手に住宅地から山中まで歩いて調査していたのを今でも覚えています。

次に、2007年からは情報政策課に配属されました。ここでは、市の様々なシステムの運用・管理を行っています。その中で、私は基幹業務を行うホストコンピュータの管理を担当しました。倉敷市には職員の手で作成したプログラムが多数存在

しており、その修正および作成を行いました。プログラムは大学時代に少しだけでしたが作成したことがあったことと、同じく大学時代に様々な機器を見てきていたので、ここでの業務には他の人よりも早く慣れることができたと思います。途中からSolarisベースのサーバーの管理も担当しましたが、やはり大学でUNIXベースの端末を使用した経験があったため、ほぼ苦も無く業務を行うことができました。作成したプログラムが思うような結果を出さないときは、昔の実験を思い出し、最後まで諦めずにやるのだという気持ちで、やり遂げました。大学時代に学んだことが、最も発揮できた部署でもありました。

2012年からは現在まで、障がい福祉課に配属されています。障がい者の方が利用できるサービスの窓口として、その適正な支給に努めています。毎年のように制度改正が行われるので、それを反映させるのに大変苦勞しています。また、ここでもシステムの管理を行っており、以前の経験を活かしています。

市役所の業務の根幹になるのは市民が住みよい街づくりです。これを念頭に置いて日々業務を行っています。

西日本電信電話株式会社 技術革新部
研究開発センタ ユーザネットワークサービス担当

寶満 剛

平成19年度自然科学研究科博士前期課程修了



私が勤務する西日本電信電話株式会社（以下、NTT西日本）は、電話やインターネットをはじめとする電気通信事業を運営しております。サービス提供エリアは、東は富山県から西は沖縄県までの西日本全域をカバーし、「ひかり電話」「フレッツ光」などの家庭向

けサービスや、「フレッツ・VPN」「クラウドサービス」などの企業向けサービス等、様々なサービスを展開しています。

私が所属する研究開発センタは、「研究」と「商用開発」の二業務を主体とする組織です。研究は将来を見据えて、世界の最新技術や、自身で考えた新技術を試作した装置で評価する業務です。対して商用開発は、例えばフレッツの新サービス開始に向け、NTT西日本のネットワーク「NGN」上のルータ、サーバを開発する業務になります。

私の部署は宅内装置の研究・開発を行う部隊で、特にフレッツ光を家庭で利用するための装置である、「ホームゲートウェイ（以下、HGW）」の研究・開発を行っています。2年程前になりますが、HGWのWi-Fi機能の検討メンバとして現在のチームに参加することになりました。

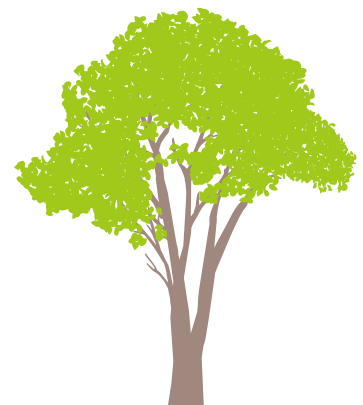
当時はスマートフォンが普及し始めた時期で、当社としてもスマートフォンユーザの獲得が課題となりました。スマートフォンとフレッツをつなぐ機能として、Wi-Fiが注目され、各部署でWi-Fiサービスが提案されました。研究開発センタとしても魅力的なWi-Fi機能の検討が必要となり、当時、公衆無線LAN開発を行っていた私に声がかかりました。

HGWの知識がない私は、開発経験者を集めてHGW上で動作する次世代Wi-Fi機能（IEEE802.11ac、当時は標準化中）を研究するプロジェクトチームを立ち上げました。海外の主要無線チップメーカーとコンタクトをとり、自身の考えた仕様で動作する次世代HGWを試作しました。電波が遠くまで届く為のアンテナの設計や、電波干渉を防ぐ機能の検討など、試行錯誤を繰り返しました。そして日々の研究が実り、2014年4月に11ac対応の新型HGWが商用化されました。

コスト削減が叫ばれる今日の研究開発分野では、事業貢献性が強く求められます。先の研究例でも、性能評価だけでなく、「ユーザの需要は?」「新技術によりオペレーションコストがどう削減されるか?」等のシミュレーションを実施しています。それらを関係部署に提案した結果、製品として世に送り出すことができました。この

ように専門知識だけでなく、事業に貢献できる創造性を持った技術者を目指したいと思います。

最後に。岡山大学の名古屋研究室で、自分から研究をさせて頂いたことや、「考えたアイデアが世の中の課題をクリアできているか?」と常に問われた経験が、現在の業務に活かされています。名古屋先生、渡邊先生、研究室の皆さん、素晴らしい環境をつくって頂きありがとうございます。今後も人々の生活を豊かにするしくみを考え、微弱ながら社会に貢献していきたいと考えています。



ホームカミングデイ

「岡山大学ホームカミングデイ2014」における工学部同窓会報告会、懇親会のご案内

工学部同窓会では、来る10月18日(土)に「工学部同窓会報告会」と「懇親会」を計画しています。この日は、岡山大学の「ホームカミングデイ2014」でもあります。この機会に、大学、学部、研究室を見学していただき、また、同窓会で旧知の友人に会い、新しい友人を作る機会になることを願っています。工学部同窓会の企画の詳細は、9月上旬に、同窓会HPに掲載される予定です。皆様の奮ってのご参加をお待ちしています。

●工学部同窓会報告会

- 日 時：10月18日(土)
15:30 (受付開始15:00)
場 所：工学部本館 (1号館) 1番教室
(1階、玄関を入ってすぐ左側)
- 工学部同窓会の活動と課題について (同窓会代表幹事)
 - 工学部の現状について (工学部長)
 - 大学院自然科学研究科の現状について (研究科長)

●工学部同窓会懇親会

- 日 時：10月18日(土)
17:00-19:00 (受付開始：16:30)
場 所：岡山大学生協ピーチユニオンレストラン (4階)
懇親会会費：3,000円 (当日会場にてお支払い下さい)

なお、準備の都合上、懇親会参加希望者は10月6日(月)までに工学部同窓会事務局 (ofst@okayama-u.ac.jp) まで、氏名、学科、卒業年等をご連絡下さい。

平成25年度 岡山大学工学部同窓会報告会、懇親会のご報告

平成25年10月19日(土)に、岡山大学工学部同窓会報告会、懇親会が、約70名の参加のもとに行われました。当日は、岡山大学ホームカミングデイとして、大学、学部でも研究室開放や各種の催しがなされた良い機会でした。

同窓会報告会には約40名の出席があり、酒井貴志代表幹事から工学部同窓会の現状、岡山支部設立の計画、全学同窓会の概要(当日午前設立総会が開催された)、これからの課題等についての説明がなされました。

続いて、懇親会が行われました。ホームカミングデイの時には同窓会の行事もあることを恒例とし、皆様が気軽に集える会にしたいと思っています。本年は、10月18日(土)です(別記参照)。



工学部同窓会報告会



懇 親 会

岡山大学工学部同窓会岡山支部設立総会、懇親会のご案内

現在、岡山大学工学部同窓会の岡山地区有志会員により岡山大学工学部同窓会岡山支部設立の準備が進められています。岡山支部の設立により、岡山とその周辺地区の同窓生が集まり、会員相互の親睦を深め、地域の企業や社会活動への貢献の場が与えられ、さらに、工学部の発展に寄与できることを期待しています。工学部同窓会岡山支部の活動の具体的な課題や進め方は、今後の皆様との話し合いを通して考えていきたいと思いますが、以下のような目的を考えています。

- (1) 工学部の学科や年代を超えた同窓会会員の交流を通して、親睦を深め、相互に啓発される機会を提供します。
- (2) 会員の知識と経験を生かして地域の企業や社会活動に貢献します。
- (3) 岡山大学工学部の活動を支援します。

岡山支部設立総会、懇親会を下記の通り予定しておりますのでご出席の程、よろしくお願いたします。なお、本会報での案内が、設立総会に間に合っておりませんが、別途ハガキによりご連絡させていただいています。また、ホームページ、メール等によってもご案内させていただいていますが、日程、予算面の制約があり行き届きにはご容赦下さい。進めていく中で、連絡方法も検討していきたいと思っています。なお、詳しくは、「岡山大学工学部岡山支部設立準備会ホームページ」を参照下さい。

(<http://okayamauniversitytech.web.fc2.com/>)

工学部同窓会岡山支部設立準備委員会発起人代表
酒井 貴志 (昭和45年、合成化学科卒)

設立総会：平成26年8月9日 (土) 13:30～14:30
岡山大学工学部5号館 2階17番教室 (旧土木棟2階)

懇親会：設立総会後 15時～17時
岡山大学ピーチユニオン4階 (生協食堂)

参加費：2,000円

場所参照：岡山大学津島キャンパスマップ (東) http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/soumu-access_tsushima_e.html

発起人：井上堅太郎 (39 工化)、加藤瑠一 (42 電気)、安藤弘行 (42 電気)、神山紀夫 (43 機械)、芝本詢三 (43 機械)、田中秀雄 (43 工化)、(順不同) 平川靖憲 (43生機)、亀山嘉正 (43生機)、秋山 進 (43電気)、尾坂明義 (45 工化)、酒井貴志 (45合成)、坂田有三 (46合成) 井口 勉 (46工化)、則次俊郎 (47 生機)、伏見一郎 (48電気)、内田哲也 (H4精応)、仁科勇太 (H22物応化)

岡山大学工学部同窓会関西支部設立同窓会のご案内

関西地区では、一部の学科で数期に亘る卒業生を対象にした同窓会を開催しました。本年度はそれらの実績を踏まえて、工学部同窓会関西支部の設立の会合を次の通り予定しています。

日時：平成26年10月25日 (土) 11時～

場所：同志社大学 京田辺キャンパス内 (参加人数により変更の可能性あり。)

当日は、工学部同窓会本部からの出席も含めて、今後の関西支部活動の進め方等の確認をする予定です。懇親会終了後には、修復工事が今春に完了した宇治平等院の観光を予定しています。

なお、今回の同窓会は、電気通信系の卒業生を中心に行いますが、関西地区在住者を主対象に、機械、化学、情報系の卒業生が今後会合できるものに発展して行きたいと考えています。したがって、工学部卒業生の少しでも多くの参加を期待しています。参加希望者は、できれば各年度の学科毎に参加人数を取りまとめて、9月末までに工学部同窓会事務局または、次のメールアドレスに連絡をお願いします。会費、当日の同窓会の詳細を連絡させていただきます。

この会合を機会に、各期の卒業生の旧交を温めるとともに、地域の活性化、異業種交流などそれぞれの自己啓発の場に発展していければと願っております。

連絡先 大森 勝 (電気2期) momoritakatsuki0822@gmail.com
岡田 実 (電気4期) kutemati-minoru@maia.eonet.ne.jp
守分 和正 (電気4期) moriwake@pf6.so-net.ne.jp
井尻 雅之 (電気5期) fuumin@hb.tpl.jp
真鍋 健次 (電気6期) manabe_kenji@hcn.zaq.ne.jp

工学部同窓会関東支部同窓会報告書

2013年7月26日

第3回工学部・法文経学部関東支部合同同窓会が、7月26日KKRホテル東京で開催されました。工業化学、機械、生産機械、電気電子工学部や情報工学科卒業生など23名が参加、法文経学部からは71名で、この中に新たに農学部2名が含まれています。この春卒業されたフレッシュマンも参加していました。

小長啓一岡山大学同窓会長、陶浪保夫法文経学部同窓会会長や酒井貴志工学部同窓会代表幹事、大学から荒木勝岡山大学同窓会担当理事、工学部からは横平徳美工学部副学部長方々より岡山大学の教育・研究・活動などの紹介がありました。

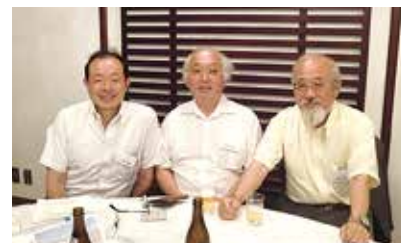
小長啓一同窓会長より岡山大学 Alumni (全学同窓会) の2013年10月設立の説明がありました。

合同同窓会は今回3回目で工学部系と法文系のテーブルに分かれて着席し、お互いの情報を紹介し合いました。

岡山県下のワインや白桃など多数の商品が岡山県や岡山市東京事務所から提供され、大抽選会 (ビンゴゲーム) が開かれました。ここでビンゴゲームで当たった人、最後まで当たらなかった人などが悲喜こもごも…。心は学生時代に戻って話に花が咲きました。

最後に法文経学部・工学部、農学部の初参加者による自己紹介があり、「これからはもっと同窓生を誘って出席したい。」と感想を述べられる方もあり盛会の中に散会しました。

(43年電気工学科卒 江本邦幹記)



[新任教員の紹介]

○平成25年8月1日付け就任

- ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
光産業創成大学院大学 教授

教授 井出 徹

○平成25年10月1日付け就任

- ・大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)
山口大学大学院理工学研究科 准教授

教授 平木 英治

- ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
(財) 神奈川科学技術アカデミー

相澤「次世代バイオセラミックス」プロジェクト 準研究員

助教 小西 敏功

○平成26年1月1日付け就任

- ・大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)
理化学研究所 協力研究員

助教 石川 篤

○平成26年4月1日付け就任

- ・大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)
奈良先端科学技術大学院大学 准教授

教授 平田 健太郎

- ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
大学院自然科学研究科特別契約職員(常勤) 講師

准教授 狩野 旬

- ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
筑波大学数理物質系 助教

准教授 早川 一郎

- ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
東京工業大学大学院理工学研究科 助教

准教授 吉岡 朋彦

- ・大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)
広島大学工学部 特任助教

助教 大宮 祐也

- ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
東京大学大学院理学系研究科博士後期課程修了

助教 浅子 壮美

○平成26年5月1日付け就任

- ・大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)
日本原子力研究開発機構福島技術本部福島環境安全センター 研究主幹

准教授 佐藤 治夫

[昇任教員の紹介]

○平成25年11月1日付け昇任

- ・大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)
大学院自然科学研究科 (電気通信系学科) 助教

准教授 七戸 希

○平成26年2月1日付け昇任

- ・大学院自然科学研究科 (情報系学科)
大学院自然科学研究科 (情報系学科) 助教

准教授 後藤 佑介

○平成26年5月1日付け昇任

- ・大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)
大学院自然科学研究科 (電気通信系学科) 准教授

教授 金 錫範

[定年、転出、退職教職員の紹介]

○平成26年3月31日付定年退職

- ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
→自適

准教授 井口 勉

○平成26年3月31日付退職

- ・大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)
→東京工業大学大学院理工学研究科 教授

教授 鈴木 康一

- ・大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)
→岡山理科大学工学部 教授

准教授 清水 一郎

- ・大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)
→広島大学大学院工学研究科 教授

准教授 中西 透

- ・大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)
→名城大学理工学部 准教授

助教 清水 憲一

- ・大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)
→大阪市立大学工学研究科 講師

助教 内田 真

- ・大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)
→九州大学大学院システム情報科学研究所 助教

助教 笹山 瑛由

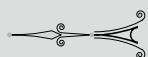
[叙勲者紹介]

(生存者叙勲 (25秋は一類該当者なし))

○平成26年春の叙勲

瑞宝中綬章

- ・佐山 隼敏 名誉教授 (システム工学科)



受賞研究の紹介



平成25年度

職名	所属学科等	氏名	受賞名	受賞日
大学院生	大学院自然科学研究科	山縣 亮介	EMTS 2013 Young Scientist Award	H25.5.22
大学院生	大学院自然科学研究科	和田 晃	日本機械学会若手優秀講演フェロー賞	H25.5.23
大学院生	大学院自然科学研究科	池上 祐太	第8回情報危機管理コンテスト ファーストレスポンス賞	H25.5.25
大学院生	大学院自然科学研究科	佐古田健志	〃	H25.5.25
大学院生	大学院自然科学研究科	宮崎 清人	〃	H25.5.25
大学院生	大学院自然科学研究科	吉崎 広太	〃	H25.5.25
教授	大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)	秦 正治	第63回「電波の日」総務大臣表彰	H25.6.1
大学院生	大学院自然科学研究科	佐藤 将也	2012年度情報処理学会論文賞	H25.6.5
准教授	大学院自然科学研究科 (情報系学科)	山内 利宏	〃	H25.6.5
准教授	大学院自然科学研究科 (情報系学科)	山内 利宏	2012年度情報処理学会学会活動貢献賞	H25.6.5
准教授	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	脇元 修一	油空圧機器技術振興財団論文顕彰	H25.6.14
教授	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	鈴森 康一	油空圧機器技術振興財団論文顕彰	H25.6.14
教授	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	岡田 晃	型技術協会 奨励賞	H25.6.18
准教授	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	岡本 康寛	型技術協会 奨励賞	H25.6.18
准教授	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	竹元 嘉利	(社)軽金属学会 中国四国支部 研究・開発奨励賞	H25.7.6
教授	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	鈴森 康一	日本ロボット学会	H25.9.5
大学院生	大学院自然科学研究科	吉崎 広太	第12回情報科学技術フォーラム (FIT2013) FIT奨励賞	H25.9.6
大学院生	大学院自然科学研究科	佐藤 将也	第12回情報科学技術フォーラム (FIT2013) FIT奨励賞	H25.9.6
准教授	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	竹元 嘉利	2012年日本金属学会論文賞	H25.9.17
准教授	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	清水 一郎	日本金属学会論文賞	H25.9.17
大学院生	大学院自然科学研究科	佐藤 将也	C S S 2013学生論文賞	H25.10.22
教授	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	五福 明夫	IEEE工業電子工学専門部会 (Industrial Electronics Society) 第39回年次大会セッション (SS68-2) ベストペーパー賞	H25.11.11
学部生	工学部	田井 伸拓	第15回IEEE広島支部学生シンポジウム (HISS) 優秀研究賞	H25.11.17
学部生	工学部	梶田 和俊	第15回IEEE広島支部学生シンポジウム (HISS) 優秀研究賞	H25.11.17
准教授	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	脇元 修一	第2回 ネイチャー・インダストリー・アワード 特別賞	H25.11.20

教授	大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)	船曳 信生	The International Conference on Applied and Theoretical Information Systems Research 2013 (ATISR2013) Competitive Paper	H25.11.24
大学院生	大学院自然科学研究科	小谷 拓也	精密工学会中国四国支部優秀講演賞	H25.11.30
大学院生	大学院自然科学研究科	米原 甫	精密工学会中国四国支部優秀講演賞	H25.11.30
大学院生	大学院自然科学研究科	藤田 佳那	日本生物工学会西日本支部学生賞	H25.12.10
大学院生	大学院自然科学研究科	高木 竜輝	低温工学・超伝導関西若手奨励賞	H25.12.13
大学院生	大学院自然科学研究科	石村 賢太	2013 IEEE Electrical Design of Advanced Packaging & Systems Symposium Best Student Paper Award - Poster Presentation -	H25.12.14
大学院生	大学院自然科学研究科	武市 修蔵	電気学会優秀論文発表賞	H25.12.16
大学院生	大学院自然科学研究科	片岡 瑞生	“第20回ヤングセラミストミーティング・イン中四国” ヤングセラミスト大賞研究部門	H25.12.21
助教	大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)	堺 健司	電子情報通信学会超伝導エレクトロニクス研究会奨励賞	H26.1.23
大学院生	大学院自然科学研究科	織田 智嗣 兼信 尚也 小村 雅之	「第12回キャンパスベンチャーグランプリ中国」テクノロジー部門優秀賞 (ツネイシパートナーズ賞) テーマ: 自動健康管理トイレ	H26.1.28
大学院生	大学院自然科学研究科	尾崎 直人 岩村 匡宏 森 航太	「第12回キャンパスベンチャーグランプリ中国」奨励賞 テーマ: 熱中症防止の多機能バンド	H26.1.28
大学院生	大学院自然科学研究科	森藤 駿 久田 一樹 三瀬 隆斗	「第12回キャンパスベンチャーグランプリ中国」奨励賞 テーマ: 形状記憶合金を用いた廃熱発電システム	H26.1.28
大学院生	大学院自然科学研究科	佐々木和徳 森中 洋平 丹 和也	「第12回キャンパスベンチャーグランプリ中国」奨励賞 テーマ: ノイズキャンセリング窓	H26.1.28
大学院生	大学院自然科学研究科	春日 基志	電気学会中国支部奨励賞	H26.2.1
大学院生	大学院自然科学研究科	川上 尚慶	第6回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM 2014) 学生プレゼンテーション賞	H26.3.4
学部生	工学部	松岡 泰正	R&S RTO1004 Report Awards 2013	H26.3.4
大学院生	大学院自然科学研究科	佐藤 将也	辻井重男セキュリティ学生論文賞 情報セキュリティ学生賞	H26.3.5
大学院生	大学院自然科学研究科	泉倉 大地	平成25年度電気・情報関連学会中国支部連合大会 連合大会奨励賞	H26.3.7
大学院生	大学院自然科学研究科	林 啓吾	情報処理学会 第76回全国大会 学生奨励賞	H26.3.13

平成26年度

教授	大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)	横平 徳美	IEEE TENSYP 2014 Best Paper Award	H26.4.14
助教	大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)	福島 行信	IEEE TENSYP 2014 Best Paper Award	H26.4.14
助教	大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)	石川 篤	平成26年度 科学技術分野の 文部科学大臣表彰・若手科学者賞	H26.4.15

寄附者一覧

工学部同窓会会員の皆様から御寄附いただきました。御協力ありがとうございました。なお、匿名希望の方につきましては、御名前を載せておりません。

機械工学科

- 昭和 39 哲彦孝宏 信雄則彦 修久明一 明晃三 義吾雄典 彦進明則 彦男一 夫博保胤 哲与久男 二正克仲 隆太敏勇 志明宏介 隆介馬一也 平徳紀太
- 紘 和義昭政一 義昭尚照 泰忠信秀 丈克 俊武三典 秀和重睦 敏 賀幸哲雄 勝敏一吉 秀 篤政吉剛 庸俊裕 純浩 純和 和桂
- 井桑井本 林田洗西 藤波波岡 本刃井田本水 藤淵崎宮 原宅本藤 岡川井川上川 納下本藤 生藤田木田野方 藤村井水 下内原村野 村子出
- 新高中保松沼御大手 大佐難難光森 渡石川松清 進田宮二藤三梅岩唯 唯杉松山市加山坂伊柳佐池植武大田近木酒早松竹藤西植西飛日
- 平成 39 新高中保松沼御大手
- 40 井桑井本 林田洗西 藤波波岡 本刃井田本水 藤淵崎宮 原宅本藤 岡川井川上川 納下本藤 生藤田木田野方 藤村井水 下内原村野 村子出
- 42 大佐難難光森 渡石川松清 進田宮二藤三梅岩唯 唯杉松山市加山坂伊柳佐池植武大田近木酒早松竹藤西植西飛日
- 43 新高中保松沼御大手
- 44 井桑井本 林田洗西 藤波波岡 本刃井田本水 藤淵崎宮 原宅本藤 岡川井川上川 納下本藤 生藤田木田野方 藤村井水 下内原村野 村子出
- 46 大佐難難光森 渡石川松清 進田宮二藤三梅岩唯 唯杉松山市加山坂伊柳佐池植武大田近木酒早松竹藤西植西飛日
- 47 新高中保松沼御大手
- 48 井桑井本 林田洗西 藤波波岡 本刃井田本水 藤淵崎宮 原宅本藤 岡川井川上川 納下本藤 生藤田木田野方 藤村井水 下内原村野 村子出
- 49 大佐難難光森 渡石川松清 進田宮二藤三梅岩唯 唯杉松山市加山坂伊柳佐池植武大田近木酒早松竹藤西植西飛日
- 51 新高中保松沼御大手
- 52 井桑井本 林田洗西 藤波波岡 本刃井田本水 藤淵崎宮 原宅本藤 岡川井川上川 納下本藤 生藤田木田野方 藤村井水 下内原村野 村子出
- 53 大佐難難光森 渡石川松清 進田宮二藤三梅岩唯 唯杉松山市加山坂伊柳佐池植武大田近木酒早松竹藤西植西飛日
- 54 新高中保松沼御大手
- 55 井桑井本 林田洗西 藤波波岡 本刃井田本水 藤淵崎宮 原宅本藤 岡川井川上川 納下本藤 生藤田木田野方 藤村井水 下内原村野 村子出
- 56 大佐難難光森 渡石川松清 進田宮二藤三梅岩唯 唯杉松山市加山坂伊柳佐池植武大田近木酒早松竹藤西植西飛日
- 60 新高中保松沼御大手
- 61 井桑井本 林田洗西 藤波波岡 本刃井田本水 藤淵崎宮 原宅本藤 岡川井川上川 納下本藤 生藤田木田野方 藤村井水 下内原村野 村子出
- 平成 3 新高中保松沼御大手
- 6 井桑井本 林田洗西 藤波波岡 本刃井田本水 藤淵崎宮 原宅本藤 岡川井川上川 納下本藤 生藤田木田野方 藤村井水 下内原村野 村子出
- 7 大佐難難光森 渡石川松清 進田宮二藤三梅岩唯 唯杉松山市加山坂伊柳佐池植武大田近木酒早松竹藤西植西飛日
- 8 新高中保松沼御大手
- 9 井桑井本 林田洗西 藤波波岡 本刃井田本水 藤淵崎宮 原宅本藤 岡川井川上川 納下本藤 生藤田木田野方 藤村井水 下内原村野 村子出
- 12 大佐難難光森 渡石川松清 進田宮二藤三梅岩唯 唯杉松山市加山坂伊柳佐池植武大田近木酒早松竹藤西植西飛日
- 14 新高中保松沼御大手
- 19 井桑井本 林田洗西 藤波波岡 本刃井田本水 藤淵崎宮 原宅本藤 岡川井川上川 納下本藤 生藤田木田野方 藤村井水 下内原村野 村子出
- 22 大佐難難光森 渡石川松清 進田宮二藤三梅岩唯 唯杉松山市加山坂伊柳佐池植武大田近木酒早松竹藤西植西飛日
- 23 新高中保松沼御大手
- 24 井桑井本 林田洗西 藤波波岡 本刃井田本水 藤淵崎宮 原宅本藤 岡川井川上川 納下本藤 生藤田木田野方 藤村井水 下内原村野 村子出
- 25 大佐難難光森 渡石川松清 進田宮二藤三梅岩唯 唯杉松山市加山坂伊柳佐池植武大田近木酒早松竹藤西植西飛日

生産機械工学科

- 昭和 45 清堂栗西 笹片宮武
- 47 水田原田川岡武田
- 48 浩周正英 廣郁 伸
- 50 一郎郎弘 郎雄 勤彦
- 56 治次 太
- 57 伸
- 59 伸

応用機械工学科

- 昭和 58 幸典午
- 平成 3 和貴章
- 大学院 修士 良原 藤 俊
- 昭和 52 機械工学専攻 内 藤 俊
- 工業化学科 昭和 39 井坂吉星 藤歳長三 遠太高白 藤岸藤安 尾井中三日 前松常 稲渡山青 浦植辻大 越大福 松菅上
- 41 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 40 堅靖哲啓 芳康弘 武志 傀 良正一 武 明 一賢 正耕 明義一 幸 清博 伸茂 伸 哲裕 幸
- 41 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 42 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 43 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 44 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 45 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 46 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 47 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 48 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 49 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 50 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 51 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 53 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 55 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 56 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 57 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 58 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 59 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 平成 元 上東尾島 澤森江好 藤田杉石 原本本木 坂口村浦部田本 藤村部本山 瀬木田倉 智橋田浦 田
- 昭和 45 鎌酒片名木 生橋渡北 山高嶋小大 三山西山
- 48 木井山田 田本 辺島根 田田島坪宅 住田本
- 49 史貴光 正福 純康 英十 志 誠昌 良真
- 50 木井山田 田本 辺島根 田田島坪宅 住田本
- 51 木井山田 田本 辺島根 田田島坪宅 住田本
- 53 木井山田 田本 辺島根 田田島坪宅 住田本
- 55 木井山田 田本 辺島根 田田島坪宅 住田本
- 56 木井山田 田本 辺島根 田田島坪宅 住田本
- 57 木井山田 田本 辺島根 田田島坪宅 住田本
- 58 木井山田 田本 辺島根 田田島坪宅 住田本
- 59 木井山田 田本 辺島根 田田島坪宅 住田本

合成化学科

- 昭和 45 朗志男 郎健一 夫和寛 淳進 治士 祐則
- 48 史貴光 正福 純康 英十 志 誠昌 良真
- 49 史貴光 正福 純康 英十 志 誠昌 良真
- 50 史貴光 正福 純康 英十 志 誠昌 良真
- 51 史貴光 正福 純康 英十 志 誠昌 良真
- 53 史貴光 正福 純康 英十 志 誠昌 良真
- 55 史貴光 正福 純康 英十 志 誠昌 良真
- 56 史貴光 正福 純康 英十 志 誠昌 良真
- 57 史貴光 正福 純康 英十 志 誠昌 良真
- 58 史貴光 正福 純康 英十 志 誠昌 良真
- 59 史貴光 正福 純康 英十 志 誠昌 良真

精密応用化学科

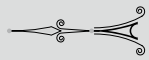
- 平成 5 池測神田 口 一明 泰知 好
- 6 栄大史 美敦 古
- 7 池測神田 口 一明 泰知 好
- 14 池測神田 口 一明 泰知 好
- 物質応用化学科 平成 16 尾西為有 赤有村 吉大小山
- 17 中村保光 木清上田 森澤下
- 18 尾西為有 赤有村 吉大小山
- 21 尾西為有 赤有村 吉大小山
- 22 尾西為有 赤有村 吉大小山
- 23 尾西為有 赤有村 吉大小山
- 大学院 工業化学・合成化学専攻 昭和 53 林 頼 信
- 大学院 物質科学専攻 平成 3 松 本 繁 章
- 電気工学科 昭和 41 棚原加網 伊井井角 中寺石川 寺土横 矢畑 植多寺吉 米落 諏前木清 倉波川 栗
- 42 田田藤島 賀田上南 嶋田橋高 尾師田吹田 原羅田沢田 合訪田村水 橋野上原
- 43 田田藤島 賀田上南 嶋田橋高 尾師田吹田 原羅田沢田 合訪田村水 橋野上原
- 44 田田藤島 賀田上南 嶋田橋高 尾師田吹田 原羅田沢田 合訪田村水 橋野上原
- 45 田田藤島 賀田上南 嶋田橋高 尾師田吹田 原羅田沢田 合訪田村水 橋野上原
- 46 田田藤島 賀田上南 嶋田橋高 尾師田吹田 原羅田沢田 合訪田村水 橋野上原
- 47 田田藤島 賀田上南 嶋田橋高 尾師田吹田 原羅田沢田 合訪田村水 橋野上原
- 48 田田藤島 賀田上南 嶋田橋高 尾師田吹田 原羅田沢田 合訪田村水 橋野上原
- 50 田田藤島 賀田上南 嶋田橋高 尾師田吹田 原羅田沢田 合訪田村水 橋野上原
- 52 田田藤島 賀田上南 嶋田橋高 尾師田吹田 原羅田沢田 合訪田村水 橋野上原
- 53 田田藤島 賀田上南 嶋田橋高 尾師田吹田 原羅田沢田 合訪田村水 橋野上原
- 54 田田藤島 賀田上南 嶋田橋高 尾師田吹田 原羅田沢田 合訪田村水 橋野上原
- 56 田田藤島 賀田上南 嶋田橋高 尾師田吹田 原羅田沢田 合訪田村水 橋野上原
- 57 田田藤島 賀田上南 嶋田橋高 尾師田吹田 原羅田沢田 合訪田村水 橋野上原
- 58 田田藤島 賀田上南 嶋田橋高 尾師田吹田 原羅田沢田 合訪田村水 橋野上原
- 60 田田藤島 賀田上南 嶋田橋高 尾師田吹田 原羅田沢田 合訪田村水 橋野上原
- 電子工学科 昭和 47 大 三 草 杉 為 三
- 49 大 三 草 杉 為 三

- 50 山松原川
- 52 本宮田村
- 54 俊 士 久
- 56 二功 郎 男
- 電気電子工学科 平成 3 田野岡 桑桑 靑竹
- 5 井代田 島島 田木 中
- 9 武英 崇修 太
- 13 博 学 典 行 平 郎 尋
- 19 武英 崇修 太
- 20 博 学 典 行 平 郎 尋
- 21 武英 崇修 太
- 大学院 電子工学専攻 昭和 58 寺 本 勤
- 情報工学科 平成 3 田藤 重 箕 中塚 富岡 輪 純謙 顯 健 弘 裕 郎 二 一 嗣
- 7 田藤 重 箕 中塚 富岡 輪 純謙 顯 健 弘 裕 郎 二 一 嗣
- 13 田藤 重 箕 中塚 富岡 輪 純謙 顯 健 弘 裕 郎 二 一 嗣
- 14 田藤 重 箕 中塚 富岡 輪 純謙 顯 健 弘 裕 郎 二 一 嗣
- 生物応用工学科 平成 5 岡 部 浩 幸
- 生体機能応用工学科 平成 6 見 山 淳 清 一 郎 貴
- 7 見 山 淳 清 一 郎 貴
- 生物機能工学科 平成 19 戎 遠 部 敬 太 郎 祐
- 20 戎 遠 部 敬 太 郎 祐
- 大学院 博士 二 見 翠
- 平成 17 二 見 翠
- システム工学科 平成 15 岡 福 遠 大 福 滝 藤 崎 森 崎 西 成 澤 野 嘉 大 創 雅 高 聡 孝 樹 右 史 賢 行
- 19 岡 福 遠 大 福 滝 藤 崎 森 崎 西 成 澤 野 嘉 大 創 雅 高 聡 孝 樹 右 史 賢 行
- 22 岡 福 遠 大 福 滝 藤 崎 森 崎 西 成 澤 野 嘉 大 創 雅 高 聡 孝 樹 右 史 賢 行
- 23 岡 福 遠 大 福 滝 藤 崎 森 崎 西 成 澤 野 嘉 大 創 雅 高 聡 孝 樹 右 史 賢 行
- 大学院 博 知 能 開 発 科 学 専 攻 平成 9 帆 足 孝 文
- 大学院 (博前) 通信ネットワーク工学専攻 平成 22 竹 久 聖 気 力 一 次 郎 次 夫 作 一 次 爾 勉 敏
- 旧職員 和 松 宮 中 野 物 販 大 平 大 小 佐 田 野 崎 川 木 延 田 崎 井 岸 槻 山 隆 茂 平 茂 一 祐 絃 竹 真 隼

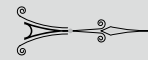
工学部同窓会へのご寄付のお願いとお礼

工学部同窓会会員の皆様には、毎年の同窓会報において「ご寄付のお願い」をさせていただいております。それに対して平成25年度は約800口（一口1,000円）のご寄付を頂いており、多大なご支援に厚くお礼申し上げます。特に、ご退職された多くの先生方からもご寄付頂き、ありがとうございました。ご寄付者名を、感謝して名簿として掲載させていただいております。この寄付金は、平成25年度決算書にある通り、同窓会の財源に大きなウエートを占めております。増加する会員に対して、新入生からの入会費は一定なので、必然的に財政的に難しくなっています。同窓会の存在意義は大きくなっていると思っておりますが、今後は、皆様からのご理解とご支援を寄付金として戴けるように、同窓会を活発に、役に立つものにしてまいりたいと思っております。出費多端の折、大変恐縮ですが、今後ともご支援をよろしくごお願い申し上げます。

工学部同窓会代表幹事 酒井 貴志



同窓会会計報告 (平成25年度)



一般会計

収支計算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
I. 収入の部				
1. 入会金収入 会費収入	3,092,440	2,848,480	243,960	288名 { @9,920×76 @9,880×212
2. 寄附金収入 寄附金収入	788,000	773,400	14,600	@1,000×808
3. 雑収入 受取利息	100,000	135,154	△35,154	普通、郵貯、有価証券
同窓会名簿代	0	10,000	△10,000	2冊
当期収入合計(A)	3,980,440	3,767,034	213,406	
前期繰越収支差額	6,577,525	6,577,525	0	
収入合計(B)	10,557,965	10,344,559	213,406	
II. 支出の部				
1. 事業費	3,059,572	2,892,291	167,281	
通信運搬費	973,000	911,890	61,110	会報、入会案内外郵送料
会議費	200,000	157,663	42,337	学科連絡委員会、ホームカミングデー
旅費交通費	50,000	104,840	△54,840	関東支部同窓会
印刷製本費	1,556,572	1,483,382	73,190	会報、入会案内、封筒外
消耗品費	10,000	13,192	△3,192	ボールペン外
助成金支出	200,000	150,799	49,201	関東支部
同窓会活性化経費	60,000	70,000	△10,000	ホームページ作業料
雑費	10,000	525	9,475	
2. 学科事業費	1,338,000	507,000	831,000	
学科配分会費	1,338,000	507,000	831,000	169名 @3,000-
3. 管理費	460,000	460,000	0	
業務委託費	360,000	360,000	0	(公財)岡山工学振興会
岡山大学同窓会会費	100,000	100,000	0	岡山大学同窓会
当期支出合計(C)	4,857,572	3,859,291	998,281	
当期収支差額(A)-(C)	△877,132	△92,257	△784,875	
次期繰越収支差額(B)-(C)	5,700,393	6,485,268	△784,875	

基金特別会計

収支計算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位：円)

科目	決算額	備考
I. 収入の部		
1. 雑収入 受取利息	149,032	有価証券
当期収入合計(A)	149,032	
前期繰越収支差額	2,583,829	
収入合計(B)	2,732,861	
当期支出合計(C)	0	
当期収支差額(A)-(C)	149,032	
次期繰越収支差額(B)-(C)	2,732,861	

工学部同窓会ホームページ <http://www.eng.okayama-u.ac.jp/alumni/index.html>

工学部同窓会ではホームページを通じてみなさまにいろいろな情報をおとどけします。ホームページを充実させるためにみなさまからの情報を募集しています。是非ご協力下さい。

例えばこんな情報を募集しています。

- ・同期会、研究室同窓会、など行事のお知らせ
- ・みなさまの近況
- ・同窓生の方がお持ちのホームページ（リンクさせていただきます）
- ・同窓生による寄稿（エッセイ、旅行記、写真などなんでも構いません）

※なお、情報を提供下さった方には、右写真にあります、「岡山大学グッズ」の中からいずれかを進呈します。

ホームページへのご寄稿、ご要望などはofst@cc.okayama-u.ac.jp宛にお願いします。



同窓会事務局より

同窓会報への寄稿などのお願い

会員の方々の寄稿、意見等をお寄せくださいますようお願いいたします。
 ●職場報告：600～1200字程度 ●会員グループ報告：600～1200字程度 ●最近の研究から：1200字まで（図・表を含む）
 ●会員短信：800字以内（近況、随想、会員や恩師への祝辞、思い出等） ●通信：400字以内

いずれも写真（顔写真あるいは関連写真）を合わせてご提供ください。

なお、いずれの寄稿につきましても、編集幹事一同の判断により、紙面の都合上内容を損なわない範囲で一部を変更、削除させていただくこと、また極端に内容が不都合であるものについては掲載をしないこと、などをさせていただきますので御了承をお願いいたします。

支部活動の助成について

次のとおり支部活動を助成します。幹事、あるいは岡山工学振興会内・岡山大学工学部同窓会(086-255-8311)へ御連絡ください。

- (1) 100人程度を超えるような支部が総会、懇親会等の活動を行う場合に助成する。
- (2) 通信連絡に必要な経費として、小野高速印刷(株)を利用した場合等の実費額と180円/人・回のいずれか安価な額を助成する。
- (3) 懇親会等の会合に要する経費として50,000円/会を助成する。

寄附のお願い

工学部同窓会は、皆様のお力添えに支えられ今日まで活動を行ってまいりました。今後も活発な同窓会活動を継続するためには財務基盤の強化が急務であるため、昨年度に引き続き会員の皆様に寄附のお願いをすることになりました。寄附は一口1,000円からとさせていただきますが、ご都合に応じ何口でも結構でございます。なお、寄附をお寄せ頂いた会員のお名前、卒業学科（専攻）、卒業年度を会報に掲載させていただきます。

会員の皆様におかれましては、寄附の趣旨にご理解を頂き、引き続きご協力を賜りたくお願い申し上げます。

ご寄附は下記宛でお願いいたします

郵便振替01270-4-5233 岡山大学工学部同窓会

*通信欄にはご住所、お名前、電話番号、卒業学科（専攻）、卒業年度、会報への氏名掲載の可否をご記入下さい。

*恐れ入りますが振込手数料はご負担下さい。

編 集 後 記

岡山大学工学部は、旧7学科から4系学科に再編された第1期生が4年生に進学し完成年度を迎えております。この新カリキュラムでは、境界領域を含む幅広い知識と技術を修得した卒業生を送り出すシステムが構築されています。産業界でご活躍の同窓生の皆様に、岡山大学工学部の卒業生がお力になれる機会が今後より一層増えることを祈念しております。今後とも、社会に必要とされるより質の高い人材を育成・供給し続ける拠点となれる様、教職員と学生が一体となって弛まぬ努力を続けます。引き続きご支援のほど、よろしくお願いたします。この新カリキュラムの完成も東の間、18歳人口の減少とグローバル化の波に対応すべく国立大学改革プランが打ち出され、工学部も岡山大学の旗印となるべく発展的な変革が断行されます。11学部を擁する総合大学である岡山大学の将来像も、今とは大きく変わっているかもしれません。しかしどんな変化の波が押し寄せても、岡山大学工学部は同窓生の誇りであり、学生にとって魅力があり、社会に尊敬される工学部として進化し続けたいと思います。昨年10月には学部の枠を超えた岡山大学全学同窓会（Alumni）が設立されました。同窓生は大学の貴重な財産であり、現場に勇気を与えてくれる存在だと思えます。工学部同窓会はAlumniとともに同窓生の皆様に岡山大学のサポーターとしてより一層のご支援を賜れますよう、お願い申し上げます。

学内代表幹事 二見淳一郎（化学生命系学科）